練習時の感染症対策について

現在、新型コロナウイルスの感染が拡大しているため、可能な限りの対策を取り練習を実施しています。練習を実施する際の対策、及び楽団員の皆様へお願いしていることは以下の通りです。これらは、全日本吹奏楽連盟及び兵庫県吹奏楽連盟が作成、または推奨するガイドライン及び感染症対策を参考に作成したものです。具体的な参考は以下の通りになっています。「全日本吹奏楽連盟ガイドライン」、BUFFET CRAMPON社による「吹奏楽部部活動における新型コロナウイルス感染防止対策について」(兵庫県吹奏楽連盟推奨)、「クラシック音楽公演運営推進協議会および一般社団法人日本管打・吹奏楽学会によるクラシック音楽演奏・鑑賞にともなう飛沫感染リスク検証実験報告書」(全日本吹奏楽連盟推奨)

これらの部員への周知及び実施を徹底し、練習を行います。

1. 部員の方々へのお願い

(１)熱がある、風邪のような症状がある、倦怠感があるなど、体調が万全でない方は無理をせず、自宅で療養し、練習に参加しないでください。

(２)練習の際に他の楽団員の皆様とお話しされる場合はマスクを着用してください。

(３)練習参加日は事前に体温を測定し、所定のフォームに記入してください。忘れた場合は練習場に入る前に体温を測定してもらいます。

1. 練習実施時の対策

(1)自宅での検温、手洗い、演奏時以外のマスク装着、日常の感染防止習慣を徹底する。

(2)アルコール消毒を用意し、こまめな手指消毒を実施する。

(3)参加者全員の検温結果を記録し1か月は保存する。

(4)部員の皆様が多く触れるような、ドアノブ等や共有物は、練習前と練習中数回、消毒を行います。

(5) 楽譜の取扱いは、原則としてライブラリアンのみが触るものとする。

(6)楽器、楽譜、譜面台、ミュートなどの用具、その他練習時に使用する物品等を不特定多数が共用しないよう注意する。また、椅子や譜面台のセッティング、片付けの際は、できるだけ特定の人が担当し不特定多数が触れないようにする。作業するスタッフはマスク、手袋を着用し、こまめにアルコール消毒等を実施する。

(7)部員が集まるロビーや楽屋、休憩室等の狭い空間では、使用人数の制限、使用時間の制限等、密な状態が生じないよう配慮し、使用者はマスク着用の上、お互いに距離を保ち、特に飲食の際には感染のリスクを生じないよう十分注意を払う。

(8)原則として屋内での昼食は認めない。また、部員同士での屋外を含む密接した状態での昼食は認めない。（部活前後の部員同士の食事会も禁止します。）

(9)個人練習は奏者間に２ｍの間隔をとって行う。基本的に、換気が少ない場所での個人練習は避けるよう部員に適宜お伝えする。また、練習場の換気性能や通気性について確認の上、状況に応じて必要な対策を行い、原則として30分に一度、5分間の換気を行う。

(10)合奏では、奏者間に2mの間隔をとったうえでなるべく向かい合う形にならない配置で行います。また、指揮者は練習において、飛沫拡散を防ぐため、マスクを着用し、必要に応じてマイクを使用する。

(1１) 管楽器の奏者は、演奏時に生じる結露水の処理を所定の吸水シートで行い、演奏終了後、自身の手で原則として持ち帰り、難しい場合は専用の所定のゴミ袋に廃棄する。また、金管楽器奏者のマウスピースでの練習は飛沫感染防止のため、屋外で行うか飛沫が飛ばないように工夫することを注意喚起する。

(1２) 保健所等の公的機関による聞き取りに協力し、氏名及び緊急連絡先を把握し名簿を作成する等、必要な情報提供を速やかに行えるよう体制を整える。

1. 楽器運搬時の対応について

（２．（６）の内、楽器運搬について）

・鍵盤系については人数絞って解体と運搬を行う

・個人パート練習と並行でやるなど、普段よりも時間をとり、密を回避するため少人数で行う。

・楽器運搬の際にマスクをし、熱中症対策としてこまめに水分補給を行う

・運搬時は必要最低限の会話のみにとどめる。

・部室前廊下では1〜2m程度の距離をとって外に並び密を避ける。（部室前廊下には原則として4人のみの待機とし、階段には人を並ばせないで部室内ないし屋外に間隔をとって待機する。

以上